

【日本の大学】第23回——千葉大学：独自色持つ未来志向型

千葉大学は1949年5月、千葉医科大学、同大学附属医学専門部と薬学専門部、千葉師範学校、千葉青年師範学校、東京工業専門学校、千葉農業専門学校という千葉県内にあった旧制の国立諸学校を統括して発足した国立の総合大学である。

大学の理念としては「世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続ける」とうたっている。



千葉大学正門

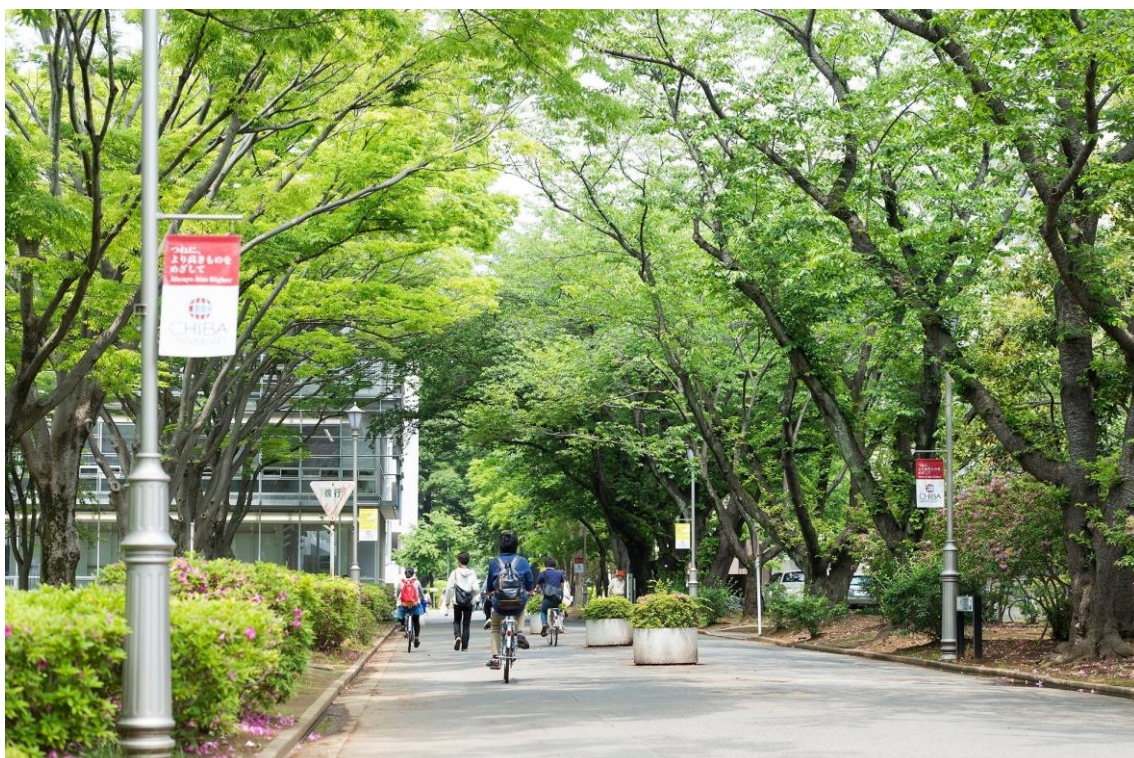
学芸など5学部で発足

当初は、学芸学部、工芸学部、園芸学部、医学部、薬学部という5学部で発足した。各学部はそれぞれ、明治時代に開設された学校や病院などを淵源としており、長い歴史を持っている。前身となった学校がそれぞれ個性的なものが多かったこともあって、独自色の強い学部や学科が多い。

以下、千葉大学のホームページなどから同大学の歴史や特色を探ってみよう。

学芸学部は1872年に始まった印旛官立共立学舎が淵源とされる。同年の学制の発布に際して教員の養成が急務であるとして発足した。その後、千葉市に移転して千葉学校となり、千葉師範学校、同女学部、青年師範学校へと広がりながら歴史を紡いできた。

工芸学部は東京美術学校図案科(1896年発足)などからつながっているし、園芸学部は千葉県立園芸専門学校(1909年発足)からスタートしている。



また、医学部は1874年発足の共立病院と2年後発足の県立千葉医学校などからの流れをくむ。薬学部もその流れから枝分かれした第一高等学校医学部薬学科からつながる。

1949年のスタート時にはこのほか、1研究所(腐敗研究所)と附属図書館があった。1955年には大学院を設置、その後は学部研究科の拡充改組を重ねてきており、現在は10の学部と、大学院には学府、研究科、研究院などが数多く設置されている。ほかにも、附属図書館、医学部附属病院、22の共同利用教育研究施設、学部などに付属している14の教育研究施設、教育学部付属の幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校から構成されている。

特色ある園芸学部

10 の学部は、当初から続いている「園芸学部」「医学部」「薬学部」のほかに、「文学部」「法政経学部」「教育学部」「理学部」「工学部」「看護学部」、さらに最も新しい学部として「国際教養学部」からなる。

園芸学部は、「食と緑」の総合学府を謳っており、ほかの国立大学には見られない特色のある学部である。園芸植物資源の生産・利用に関する先端的バイオテクノロジー、環境負荷を低減する資源・エネルギーの効率的な利用、人と自然が共生する環境の保全・再生とランドスケープ（景観構成要素）の創造、医学と福祉への植物の利用、園芸関連産業の経営・マーケティングと政策などの分野で、社会づくりに貢献し、国際的に活躍する人材を養成する。「園芸学科」「応用生命化学科」「緑地環境学科」「食料資源経済学科」の4学科からなっており、その下に「栽培・育種学」「生物生産環境学」「応用生物化学」「環境造園学」「緑地科学」「環境健康学」「食料資源経済学」の七つのコースを持っている。

工芸学部は2年後の1951年に工学部に改称されている。

学芸学部は設立の翌年、1950年に文理学部と教育学部に分かれ、文理学部が人文学部と理学部に枝分かれ(1968年)し、人文学部は文学部と法経学部に分かれ(1981年)、現在に至っている。

理学部は基礎科学を担っており、「数学・情報数理」「物理」「化学」「生物」「地球科学」の5学科がある。



西千葉キャンパスの工学部

国際化へ取り組み強化

国際教養学部は 2016 年に発足した新しい学部で、国立大学で初の国際教養学部である。世界の諸課題をグローバルな視点から解決することを目指す。文理混合の視点から、国内外のフィールドで実践的な解決を模索しながら社会貢献を図ることを目指している。

また、大学院の研究科・学府は数が多く、人文公共学府、専門法務研究科、教育学研究科、融合理工学府、園芸学研究科、医学薬学府、看護学研究科、総合国際学位プログラム、国際学術研究院、人文科学研究院、社会科学研究院、理学研究院、工学研究院、医学研究院、薬学研究院がある。

国際化への取り組みを強化しているのも特色である。2012 年には、「千葉大学国際化の方針——グローバル・キャンパス・千葉大学」との提言をまとめている。この方針は、2021 年度までを見据えて大学が「世界を先導する教育・研究を促進する大学を目指し、グローバルに活動する大学を推進する」ための中期的な展望を示したものだ。



海外へ留学する前に記念写真（第5期生）

それによると、「国際社会で活躍できる次世代型人材の育成」を目標に、教育面では1) 多様なプログラムの設置による魅力ある国際共同教育の推進、2) 国際的な連携による学生のスムーズな派遣・受け入れ、3) 国際協定・国際インターンシップ・国際活動の推進——を、また、研究面では1) 学際的な国際共同研究、2) 学内連携による独自の国際共同研究・教育、3) 海外の国際研究拠点の形成——を推進するとしている。2020年度からは「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”」を実施した。このプランでは「学部・大学院生の全員留学」を目指して、留学プログラムや留学支援体制の強化や、外国人教員の増員などによる教育環境整備を行う計画である。

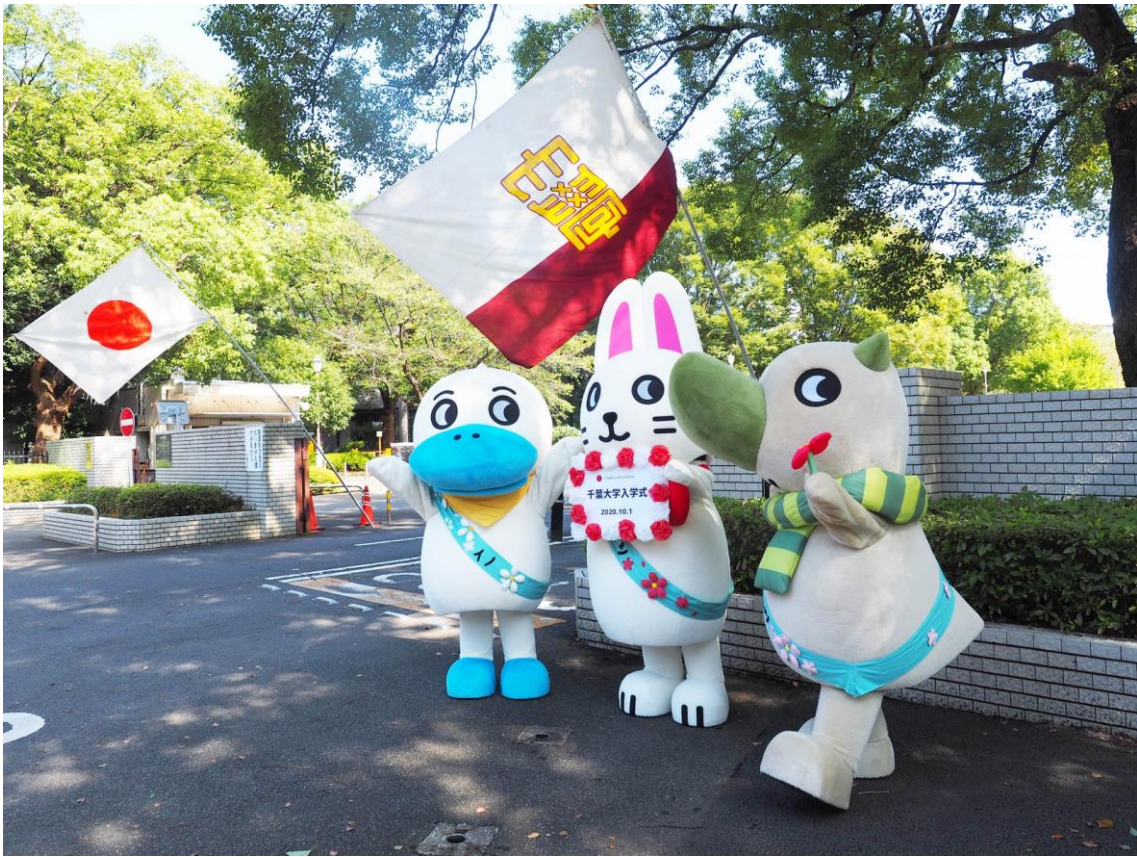
ただ、世界大学ランキング日本版における「国際性」への評価は決して高いとは言えない。しかも、昨今の新型コロナウイルス禍が国際化への積極的な取り組みに大きな障害になっていることは間違いない。



国際交流パーティ

飛び入学を初導入

飛び入学制度を取り入れているのも大きな特色である。先進科学プログラムとして、1998年度の入試から日本の国公立大学として初めて導入した。高校2年修了後に、通常より1年早く大学に入学できる制度である。大学の先進科学センターによると、入学後は、所属する各学部・学科の授業科目と並行して、飛び級生専用のカリキュラムに基づいた少人数教育を受けることができる。現在、飛び級制度には三つのコースがある。高2生を対象に、独自の課題論述試験と面接による「方式1」と、一般入試の結果と面接による「方式2」という二つの入試を実施。また、高校3年生を対象として9月入学(秋飛び入学)の「方式3」もある。それぞれ、受験できる学部・学科が決まっている。



2020年10月入学式

教職員数は3402名、学部学生数は、男子6331名、女子4142名で計10473名である。また大学院の在籍者数は、男子2240名、女子1119名の計3359名である。留学生数は2328名に上る。(2020年5月現在)

キャンパスは、西千葉、亥鼻、松戸、柏の葉の4カ所からなる。西千葉は、千葉市稲毛区にある面積38万平米のメインキャンパスである。ここに医学部系を除く大部分の学部その他の施設が集中している。亥鼻キャンパスは同じ千葉市の中央区にあり、医学部、薬学部、看護学部と大学院、医学部付属病院などが置かれている。松戸キャンパスは園芸学部、柏の葉キャンパスには環境健康フィールド科学センターなどがある。



松戸キャンパス

現在の学長は第14代の徳久剛史氏(千葉大学医学部出身)であるが、2021年3月末で任期満了となり、同4月からは、第15代学長に現副学長の中山俊憲氏が就任する(任期は4年)。中山氏は山口大学医学部卒、東京大学大学院修了。免疫学やアレルギー学が専門。米国立がん研究所、東大医学部免疫学教室などの勤務を経て、千葉大学大学院医学部研究院長、医学部長。

日文：滝川 進

写真：千葉大学 Facebook から